

令和元年度 フィリピン海外研修旅行（報告）

渡部和彦

研修テーマ： 「第2次大戦の戦跡巡りとフィリピン大学表敬訪問」

研修期間： 2019年10月16日（水）～10月19日（土）

訪問国： フィリピン

主たる研修場所： マニラ市内、コレヒドール島、フィリピン大学デリマン校、

マニラ市内視察：①イントラムロス（Intramuros）。16世紀スペイン統治時代、スペイン人によって造られた首都マニラ最古の地区。分厚く高い壁で囲まれた要塞である。

②サンチャゴ要塞（Fort Santiago）1571年から150年の歳月をかけて建造された。日米両軍の戦闘で破壊されたが、その後修復され現在は広い公園になっていた。

③マニラ大聖堂（Manila Metropolitan Cathedral Basilica）フィリピン最大のパイプオルガンを有する、マニラで最も重要な教会。重厚な建物の中で、結婚式が晴れやかに行われていた。

④サン・アグスチン教会（San Agustin Church）フィリピン最古の寺院。イントラムロスの内側にあり、破壊されずに建設当時のまま残る唯一の寺院（1587-1606に建設）。

⑤メモラーレ・マニラ（Memorare Manila 1945）マニラ市街戦（1945.2.3～3.3）で、犠牲となった市民の慰霊碑。50周年を期して、建立された。マニラ大聖堂近くのイントラムロス内の静かな公園の一角にあった。

⑥リサル公園（Rizal Park）では、広大な公園の入り口に、独立運動の英雄、ホセ・リサールの大きな記念碑が立つ。リサルは、1896年スペイン軍によって銃殺された。その銃殺現場の様子が、公園横の庭に、銃を構える多数の兵士達、銃弾を浴び、手を縛られたままのけぞるリサールの像がリアルに再現されていた。

フィリピン大学デリマン校では、理科教育センターを訪問。主任教授と副主任の女性スタッフに対応していただいた。和やかな雰囲気の中で、理科教育に関する国際協力の現状などについて意見交換を行った。広島大学の留学生や帰国後同大学の教員として活躍中の皆さんとも交流ができ、有意義な訪問でした。

第2次大戦の激戦地、サンチャゴ要塞、さらにコレヒドール島では、日本軍による米軍基地（マイル・ロング旧兵舎・他）への爆撃で、徹底的に破壊された建造物の残骸がそのまま保存されていた。また、数千人収容可能な病室や米軍司令部があった地下要塞「マリントンネル（全長254m）」は、日本軍による要塞占領後、米軍の逆襲で追い詰められた末、自滅的に内部を爆破したとされる。トンネル内の幾つかの部屋には、当時の司令室・基地内の実生活が再現されていた。多数の映像を用い、現地ガイドの詳しい解説があった。

74年の歳月を経て、日・米そして、フィリピンを巻き込んだ激しい戦闘の現状を垣間見る
思いであった。海を臨む丘に建つ日本兵の慰霊碑を参拝。傍らの広場に、氏名・出身地を刻
む多数の石板を見た。特に、弱冠17歳（鹿児島）の石板には、胸が痛んだ。

戦争の悲惨さ、平和を守ることの重要さを改めて思い知らされた旅でした。

（参加者：三浦省五、原野 昇、池田秀雄、石丸紀興（HM 広島）、渡部和彦）



日本軍兵士慰霊塔（コレヒドール島）



米軍基地の砲台：壁の弾痕が生々しい
（コレヒドール島）



フィリピン大学デリマン校理科教育センター